

小学校・国語

【 話すこと・聞くこと 】

<定着が見られる内容>

- 相手や目的に応じ、事例を挙げながら筋道を立てて話すことは概ね身に付いている。
- 計画的に話し合うための司会の役割を捉えている。

<課題が見られる内容>

- ◆話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることに課題がある。
- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめることに課題がある。

指導改善のポイント

- ☆自分の考えを書き、話し合う機会を増やす。
- ☆「聞く・話す」の対話を重視した学習形態の充実を図る。

【 書くこと 】

<定着が見られる内容>

- 物語を書くときの構成の工夫をすることができる。
- 文章全体の構成を時系列で考え、自分の想像したことを物語に表現できる。

<課題が見られる内容>

- ◆目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。
- ◆目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることに課題がある。

指導改善のポイント

- ☆書くことへの苦手意識を克服するために、根気よく最後まで粘り強く取り組ませる。
- ☆叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめるため、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係付けたりして考えさせる。
- ☆読書指導の充実により、美しく味わい深い言葉や表現が豊かな文章にふれさせ、語彙を増やし、「ことばの力」を身に付けさせる。

【 読むこと 】

<定着が見られる内容>

- 目的に応じて、必要な情報を捉えることができる。

<課題が見られる内容>

- ◆登場人物の心情について、情景描写に着目して複数の叙述と関係付け、そこから分かることを捉えることに課題がある。
- ◆目的に応じて、複数の本や文章等を選んで読むことに課題がある。
- ◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。

指導改善のポイント

- ☆登場人物相互の関係にもとづいた行動や会話、情景等をしっかり読み取り、そこから心情を捉える学習を充実させる。
- ☆複数の本を比べて読む活動を通して、そこから生き方や人生等、共通する事柄を見いだす学習を行う。
- ☆文章を繰り返し読み、内容をしっかり読み取った上で自分の考えを持ち、記述したり発表したりするなどの表現力を育てる学習を充実させる。

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

<定着が見られる内容>

- 日常生活で使われている慣用句の意味はよく理解している。
- 普通の生活でよく使う言葉の漢字は概ね理解している。

<課題が見られる内容>

- ◆へんの違い、かんむりの有無等、似ている字の使い分けに課題がある。
- ◆主語と述語との関係の理解に課題がある。
- ◆敬語の理解に課題がある。

指導改善のポイント

- ☆基礎学習として漢字練習の時間を設定し、特に似ている漢字等、理解の徹底を図る。
- ☆「書く」活動の場面を多く設定し、作文力を高め、言語活動の充実を図る。
- ☆相手と自分の関係を意識しながら、敬語を使って話せるようにする。

今後に向けて

- ⇒自分の考えを書き、話し合う機会を増やすことや、「聞く・話す」の対話を重視した主体的で深い学びにつながる学習形態を充実させ、コミュニケーション能力を高める。
- ⇒日記や作文等、文章を書く学習を多く取り入れるとともに、読み取った文章に対して自分の考えを記述したり発表したりする機会を多く設定し、「ことばの力」を育成する。
- ⇒図書室を有効活用するとともに、朝読書の充実を図る。また、家庭や地域とも連携して家読（うちどく）を推進し、読書の習慣を身に付けさせる。
- ⇒基礎学習として漢字練習の時間を設定し、特に似ている漢字等、理解の徹底を図るとともに、平素より正しい敬語を使って話せるようにする。

児童が苦手とした問題

<国語B 伝記を読み、自分の考えをまとめる>

3

山下さんは、日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士について書かれた伝記「湯川秀樹」を読み、最も心がひかれた一文とその一文を選んだ理由をまとめることにしました。次は、山下さんの「ノートの一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【ノートの一部】

湯川秀樹（一九〇七年～一九八一年）

物理学者。全てのものは非常に小さいつぶからできており、そのつぶに関する新しい考えを導き出した。その後、日本人で初めてノーベル賞を受賞し、戦後の日本に希望をもたらした。



心に残った行動や成しとげたこと	物事への熱中の仕方がすごい。わたしもバズルに熱中することがあるけれど、そんなに長くはできない。
思ったこと	続けることは大変だけれど大切だ。わたしは水泳を習っている。やめたいと何度も思ったが、続けたことで、長く泳げるようになった。

二 山下さんは、最も心がひかれた一文として、**B**の中から「自分の力で、やれるところまでやってみよう」を選びました。そして、「ノートの一部」の**C**を書くために、もう一度伝記「湯川秀樹」を読み返しています。次の「伝記「湯川秀樹」の一部」を読み、**C**の□に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

秀樹は、大学を卒業した後も引き続き大学に残って研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。そのころ世界では、秀樹が取り組んでいる研究の分野で新発見が相次いでいた。研究の見通しがつかず、秀樹にとって苦しい日々が続いていた。

昼夜を問わず、秀樹の頭の中には研究のことがあった。ふとんに入ってから研究のことを考え、次々にうかんでくるアイデアをわすれないために、まくらもとにはノートを置くようにした。そして、アイデアを思いつくごとに電灯をつけてノートに書きこむようにし、ねばり強く考え続けていた。秀樹は、だれも知らない真実を探ろうとしていたのである。

数学によって考えることの喜びを教えられた。むずかしい問題に出会うとフアイトがわき、夢中になって解いた。夕食を知らせる母の声も耳に入らなくなっていた。

わたしはむずかしい問題は、すぐにあきらめてしまう。湯川博士はなぜそこまで夢中になれるのだろう。

大学を卒業した後も引き続き大学に残り研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。研究の見通しがつかず、苦しい日々が続いていた。

湯川博士も苦しいと思うときがあったということにおどろいた。

B 家族から外国への留学をすすめられた湯川博士は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたくなないと断った。自分の力で、やれるところまでやってみよう。何度失敗してもよいと考えた。

一度始めたことはなかなかやめないという湯川博士のことをよく表している。



C 最も心がひかれた一文とその理由

C 最も心がひかれた一文とその理由

「自分の力で、やれるところまでやってみよう。」

この言葉は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたくない、と留学の話を断ったときの湯川博士の言葉である。湯川博士はおさないころから、積み木に熱中したり、書道にしんぼう強く取り組んだり、一度始めたことを最後までやりとげようとしていた。また、

これらのことから、「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文は、ねばり強く物事に取り組む湯川博士のことをよく表していると思った。

わたしは、勉強やスポーツに取り組んでいるとき、とちゅうであきらめてしまうことがある。これからは湯川博士のように、ねばり強く最後までやりとげるようになっていきたい。